

平成28年度 第2回 原子力土木委員会 議事録

1 日 時 平成28年12月21日(水) 13:30～17:40

2 場 所 土木学会 講堂

3 出席者(第2部出席者、敬称略、順不同)

- 委員 丸山委員長(長岡技術科学大学)、蛭沢副委員長(電力中央研究所)、大坪委員(九州電力)、大野委員(四国電力)、小池代理(日本原電)、高橋委員(日本原燃)、高原委員(鹿島建設)、谷委員(東京海洋大学)、佃委員(産業技術総合研究所)、土委員(清水建設)、仲村委員(中部電力)、野口代理(電源開発)、原口委員(関西電力)、前川委員(東京大学)、松浦委員(ダイヤコンサルタント)、村野代理(東北電力)、米山委員(京都大学)
- 幹事 松村幹事長(電力中央研究所)、河井委員兼幹事(東北大学)、庄司委員兼幹事(筑波大学)、中村委員兼幹事(日本大学)、松本委員兼幹事(東京電力)、渡辺委員兼幹事(大成建設)、審幹事(関西電力)、中島幹事(電力中央研究所)、東川幹事(中部電力)
- オブザーバー 國生(中央大学)、青柳小委幹事、小早川小委幹事長、松尾小委副幹事長、松山小委幹事長(以上、電力中央研究所)
- 土木学会 小川

4 議 題

(1) 第1部 公開講演会(13:30～15:10)

- 演 題 エネルギーによる耐震設計の可能性
ー鉛直アレー強震記録による地震波動エネルギーの実像と適用例ー
- 講演者 中央大学名誉教授 國生剛治
- 参加者 約50名(委員を含む)

(2) 第2部 委員会(15:20～17:40)

- ①委員長挨拶
- ②前回議事録・委員名簿の確認
- ③2016年度活動状況と年間計画
- ④津波評価技術改訂版
- ⑤小委員会報告(津波評価小委員会、国際規格研究小委員会、地盤安定解析高度化小委員会、地中構造物耐震高度化小委員会、断層活動性評価高度化小委員会)
- ⑥次期委員長候補選出
- ⑦全国大会研究討論会
- ⑧次回予定

5 配布資料(委員会)

- 資料1-1 委員会名簿
- 資料1-2 前回委員会議事録(案)
- 資料2 2016年度活動状況と今後の方針
- 資料3 年間計画

- 資料4 津波評価技術改訂版
- 資料5-1 津波評価小委員会
- 資料5-2 国際規格研究小委員会
- 資料5-3 地盤安定解析高度化小委員会
- 資料5-3-1 断層変位WG熊本地震調査報告
- 資料5-4 地中構造物耐震高度化小委員会
- 資料5-5 断層活動性評価高度化小委員会
- 資料6 次期委員長候補選出について
- 資料7 全国大会研究討論会について

6 議事

(1) 委員長挨拶

丸山委員長から、引き続き委員の積極的な活動をお願いしたいとの開会の挨拶があった。

(2) 前回議事録・委員名簿の確認

松村幹事長から、資料1-1、1-2に基づき「前回議事録」、「委員名簿」の確認があり、了承された。

(3) 2016年度活動状況と年間計画

松村幹事長から、資料2に基づき「2016年度活動状況」、中島幹事から、資料3に基づき「年間計画」の説明があった。また、丸山委員長から、来年の1月26日に廃炉関係の協議会、3～4月頃に東京電力の状況報告会、4月頃に福島第一原子力発電所の見学会を予定しているとの説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- C 学会・他学協会などへの協力状況に、環境賞選考委員会への参加を追加して頂きたい。
- C 予算支出状況に、各小委員会の受託研究も追加して欲しい。
- C 全国大会の原子力土木セッションについて、会場でセッションの存在を知らなかったとのコメントを受けたので周知をよろしく願いたい。
- C 昨年度はC評価であったため、土木学会のレビューを受けたが、他の学会・学協会などへの参加を紹介したところ、土木学会の他の委員会では行われていないことで、かなり良い印象を与えることができた。

(4) 津波評価技術改訂版

松山小委幹事長から、資料4に基づき「津波評価技術改訂版」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- Q 今後の刊行物については、資料に示されたデザインを使用するというのか。
- A 基本的はそうである。原子力土木委員会として継続的な活動をアピールするため、少なくとも番号は付ける。

(5) 小委員会報告

①津波評価小委員会

松山小委幹事長から、資料5-1に基づき「津波評価小委員会の今年度の活動概要」の説明があった。特に質疑はなかった。

②国際規格研究小委員会

河井小委幹事長から、資料5-2に基づき「国際規格研究小委員会の活動計画」の説明があった。主

な質疑応答は以下のとおり。

- Q IAEAのドナー会議において液状化に興味を持っている国が多いのは、地震被害等による問題意識があるのか。
- A 欧米では設計を超える地震動に対して興味が高い。
- A これまで日本でやられてきたことがやられてこなかったという状況でもある。

③地盤安定解析高度化小委員会

小早川小委幹事長から、資料5-3に基づき「地盤安定解析高度化小委員会の2016年度活動状況」、青柳小委幹事から、資料5-3-1に基づき「熊本地震調査報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- C 釜山でのSMiRTの後に、日本でのSMiRT開催誘致のため、ポストSMiRTを日本で開催し、地盤の液状化等を報告する予定である。

④地中構造物耐震高度化小委員会

松尾小委副幹事長から、資料5-4に基づき「地中構造物耐震高度化小委員会の活動状況」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- C 「屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル(2005)」についてはPDFにしてHP上で公開する方向で考えている。
- Q アンカーの定着性能の確認は、実際の現場状況を確認したうえで行うのか。
- A 機器側との情報交換は行っているが、コーン状破壊が起き易い条件での実験なので現場状況と全く同じではない。
- Q これまでのコーン状破壊の式との違いは何か。
- A これまでの式は面内せん断による小さいひび割れ幅のひび割れを対象としているが、今回は面外せん断による比較的大きいひび割れ幅のひび割れまでを対象としている。
- C 原子力学会の断層変位の方から、一般的なものでは説明性がなく、現場状況の確認が必要とのコメントを受けている。
- Q 研究目的の屋外重要土木構造物の標準的な方法とは何か。
- A 小委員会では鉄筋コンクリート製の地中構造物を対象としているが、標準化は屋外重要土木構造物を対象としている。記載については再考したい。
- C 目的は重要なので、内容が分かるように記載して欲しい。

⑤断層活動性評価高度化小委員会

青柳小委幹事から、資料5-5に基づき「断層活動性評価高度化小委員会の平成28年度の活動状況」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- Q IAEAにおいてニーズがあるので、断層側と構造側の橋渡しを小委員会で行って欲しいがどうか。
- A 地盤安定、構造物、断層活動性の各小委員に関係するので、統合的な議論を行う場が必要である。
- C 現状において学会や電力、電力中央研究所で様々な研究や議論が行われている。既に適宜連携を図っているが、主目的が明確になっている受託の小委員会の活動とは切り離して考えて欲しい。
- A 構造物小委員会の中で実施するかどうかは別として、解析を中心とした評価であれば対応可能な検討対象であると考えている。
- C 国際的な活動に情報を提供する機会なので、幹事会で検討して欲しい。

(6) 次期委員長候補選出

松村幹事長から、資料6に基づき「次期委員長候補選出」の説明があった。丸山委員長の任期が平成

29年5月までなので、次期委員長候補を選出する必要があり、前回と同じ手順で実施していくとの説明があった。

(7) 全国大会研究討論会

渡辺委員兼幹事から、資料7に基づき「全国大会研究討論会」の説明があった。2017年度の土木学会年次講演会での研究討論会は、基本的には各小委員会でテーマに関する議論をして頂きたいとの説明があった。

(8) 次回予定

松村幹事長から、次回委員会の候補日として、平成29年の5月30日(火)または5月31日(水)のいずれかの開催を予定しているとの説明があった。

以上